

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括表

事業名	松川河川敷 東日本台風災害からの復興の推進
事業主体	旭ヶ丘地域づくり推進プロジェクト
(連絡先)	須坂市旭ヶ丘7-55 旭ヶ丘ふれあいプラザ内
重点テーマ	② ふるさとを大切に作る心を育む取組の推進
	⑦ 令和元年東日本台風災害からの復興の推進
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,077,368円 (うち支援金801,000円)

事業内容

1. 高水敷・「松川四季の道」の原状回復と維持管理

- ・清掃・草刈り作業

年間8回実施、ボランティア延べ
150人参加

- ・アヤメ畑の修復及び堤防天端に
アヤメ意匠用・スイセン植付用
畑作製



スイセンの球根の植付
10月19日(火)旭ヶ丘小学校6
年生児童25名、先生2名とスイセ
ン球根500個の植付を行う。

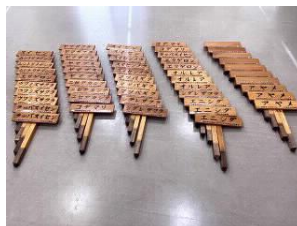


- ・四季の道案内看板設置

四季の道の案内と、四季の道に咲
く花々を掲載した看板が8月21日
完成(平成30年度元気づくり支援
金で設置した「四季の道景観看板」
の裏面を利用)



- ・四季の道に咲く花の名入れ看板の作製と設置
名入れ花看板50本作製(50本)その後防腐剤
塗布、筆寺で名入れ後、四季の道の花の周り
に植込み。8月3日終了。ボランティア人数
15人参加。



・「四季の道からの眺望」チラシ作成

景観看板の表裏とまったく同じ内容でチラシを作成。
自然勉強会・武田徹さん講演会などで使用。須坂市各地域
公民館に配布。



・乗用草刈機の購入

7月15日納車、その後草刈に大活躍
今後の景観維持管理に大きく貢献。

2. 「ふるさとを愛する心を育む」講演会

11月21日(日)午前10時より、約2時間「ふるさとを
愛する心を育む」テーマにラジオパーソナリティ
武田徹さんが講師として実施された。(別添資料参照)



3. 自然勉強会

- ①地域住民に対する勉強会 4回開催
- ②旭ヶ丘小学校児童に対する勉強会 10月19日開催
- ③須坂市の自然勉強会 11月26日(金) 講師 長野県地域学会副会長 渡辺敏泰 氏
(各勉強会7資料については別添資料参照)



①地域住民



②旭ヶ丘小学校児童



③須坂市民

4. 情報発信 機関紙「プロジェクトだより」12月1日発行(別添資料参照)

事業効果

- 、①支援金を活用して講演会・自然勉強会を実施し、環境景観整備を行い、松川流域に対する関心の高まりが感じられ、県建設事務所による大規模な河川改修の影響もあり「松川四季の道」利用者が約1.5倍となった。
- ②河川の清掃・草刈り参加者が、平成30年度の「元気づくり支援金活用事業」実施時に比べてほぼ2倍となった。住民のふるさとを愛する心にインパクトを与えられた。
- ③旭ヶ丘小学校児童とのスイセン植付作業により、次代を担う若年層へのアプローチに寄与できたと感じているが、今後も児童たちの「ふるさと愛する心」を育むためにいろいろなアクションを模索していきたい。

【目標・ねらい】

- ①ふるさとを愛する心を育み、ふるさとの景観を大切にする心の醸成。
- ②東日本台風災害からの復興を推し進める
- ③「松川四季の道」の利用者を増大。

今後の取り組み

来年3月まで須坂建設事務所による松川の大規模改修が続行される。その結果を踏まえて、建設事務所市・道路河川課と相談させていただき今後の取組を模索していきたい。周辺の環境維持管理については今後もボランティア参加者の増大に努め、誇りあるふるさとの景観の維持に努力する。「松川四季の道」の利用者は今後も増えていくことが予想される。周辺住民・須坂市民への認知度アップを図り、住民・市民の健康のために貢献したい。

自己評価 A

【理由】

- ・松川に対する住民の意識に大きな変革を感じ取れる。
- ・支援金を使つての事業とともに須坂建設事務所による河川の大規模改修により想定以上の復興が推し進められた。
- ・「松川四季の道」の利用者が大幅に増えた。

(別記様式第12号) (第3の8関係)

(長野地域)

令和3年度 地域発元気づくり支援金事業総括書

事業名	農道協働整備事業
事業主体 (連絡先)	千曲市 (千曲市経済部農林課農村整備係 026-273-1111 (内線 3273))
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	4,976,675円 (うち支援金: 2,363,000円)

事業内容

地域で策定された「地域づくり計画」に基づき、地域住民の参加によるまちづくりを行う事業を支援する。

本事業は未舗装の農道を地域住民の手作り作業により舗装を行うことで、維持管理の軽減と荷痛み防止による農地の高度利用を促進し、住民と市がともに手を携えて進めるまちづくりを目指す。

市でコンクリート舗装の資材と、路面整形用の重機を手配し、地域住民の参加により実施しました。



【農道整備】

- ◇千本柳区 (C o n 舗装)
延長L=100m 参加人員 15人 (地域住民)
- ◇大田原区 (C o n 舗装)
延長L=100m 参加人員 15人 (地域住民)
- ◇倉科区 (C o n 舗装)
延長L=40m 参加人員 15人 (地域住民)

【地域住民が参加し、作業を進めます。】

【目標・ねらい】

- ①農道の維持管理の軽減
- ②農地の高度利用
- ③住民参画によるまちづくり

事業効果

地域住民自らが「地域づくり計画」を作成し、住民と市が共に課題解消を進めることで、住民参画によるまちづくりの意識高揚と経費の節減につながりました。

今後の取り組み

今後も、市と住民との協働によるまちづくりを積極的に推進します。

※自己評価【 B 】

【理由】

農道を舗装し維持管理の軽減と荷痛みを防止することで、農地の高度利用を促進することは元より、「住民参加」による住民と行政が共に手を携えて進めるまちづくりの推進が図れた。

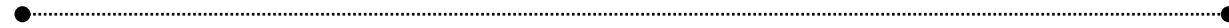
※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域のみちづくり支援事業
事業主体 (連絡先)	坂城町 (0268-82-3111)
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	3,483,909 円 (うち支援金 : 1,729,000 円)



事業内容

農道・林道については、地域の生活を支える道として地域から補修・改修の要望が多く、以前から地域住民との協働作業により、農林道整備を実施してきた。

町では、要望のあった農林道について、事業規模、内容等から地域との協働作業が可能な箇所について、設計を行い、これをもとに原材料、所要作業、必要な重機等を算出、地域へ原材料を支給するとともに、舗装作業等の施工のサポートを実施した。

- 林道太郎山線舗装工事 L=100m W=3.0m
- 林道網掛線舗装工事 L=100m W=3.0m
- 小野沢地区農道舗装工事 L=53m W=3.0m



【舗装工事風景】

【目標・ねらい】

- ①地域に密着した道路の協働作業による整備
- ②地域協働活動の推進
- ③施工技術の継承

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

地域住民と受益者が自ら施工することで、地域の財産として愛着と責任を持ち、大切に管理していく気運の醸成が図られた。

施工に際し、ノウハウを持ったベテランから次の世代へとその技術が継承されるなど、地域の連携感がより一層育まれた。

※自己評価【B】

【理由】

予定区間の補修・改修を完了
施工も安全に行われ、地域で利用する道路を住民自ら整備することで地域の連携を深め、協働の意識を高めるねらいを達成できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後も地域に必要な農林道の協働による整備を通じて地域協働活動の推進と施工技術の継承を図るため、積極的に原材料支給等の地域への支援を実施していく。

引き続き地域のニーズを踏まえながら、効果的な支援を図りたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	よろずぶしん事業
事業主体 (連絡先)	小布施町役場建設水道都市・課建設係 (026-214-9115)
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	3,082,310 円 (うち支援金: 1,356,000 円)

事業内容

従来から行われてきました、地域住民による道路や水路の清掃などに加え、道路・公園・水路等の軽微な補修等の「よろずぶしん事業」を支援することにより、地域活動事業の推進・拡大を図る。
支援内容は、原材料の支給 (U字溝のグレーチング、砕石等)



【水路改修事業】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 水路改修事業
U字溝のグレーチングを支給し、地域役員さんの出勞により設置を行い、水路への転落防止を図るとともに、副次的に落ち葉等が水路へ入るのを防ぐことができ、水路を良好な状態に保つことができた。

【目標・ねらい】

① 地域づくりへの積極的な参加を図り、住民と行政が一体となった安全で安心な活力ある協働のまちづくりに寄与する

※自己評価【 B 】

【理由】
予定していた効果が得られた

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

地域の協働事業に対して長野県の支援があるということで、地域のできる事業は地域で行うという自主的な活動が盛んになる。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	高山村おてんま支援事業
事業主体 (連絡先)	高山村役場建設水道課 電話：026 - 214 - 9297 担当：牧野 貴成
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業 (4) 安全・安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,467,465円 (うち支援金：978,000円)

事業内容

従来から地域住民により行われてきた道路や河川清掃などの「おてんま作業」に加え、道路・河川・水路の軽微な補修、景観整備事業等の「おてんま作業」を支援することにより、地域活動事業の拡大を図る。

支援内容としては、原材料の支給（道路・水路の補修材や環境整備のための資材、砕石など）。



【駒場区おてんま支援事業】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

地域づくりへの積極的な参加促進により、住民と行政が一体となった活力ある協働の村づくりに寄与できた。

※令和3年度実施団体：8団体

【目標・ねらい】

- ①住民が主体的に地域づくりを行う。
- ②住民と行政が一体となった活力ある協働の村づくりを進める。

※自己評価【 A 】

【理由】

地域づくりへの積極的な参加と、住民と行政が一体となった活力ある協働の村づくりが推進できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後、さらに協働の村づくりを推進するため、活動を定着させていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	住民主体のみち直し事業
事業主体 (連絡先)	信濃町 (建設水道課 管理・国土調査係) Tel.026-255-6821
事業区分	(1)地域協働の推進に関する事業 (4)安全・安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	1,795,288 円 (うち支援金 : 964,000 円)

事業内容

町において原材料(砕石・生コンクリート)を地域に支給し、住民の労力により、町道の維持管理を行う。

- 工事か所 : 町内 12 地区の町道等
- 工事内容 : 未舗装道路の敷砂利整備、未舗装道路のコンクリート舗装等



【古海区】

【目標・ねらい】

- ①良好な生活環境の保全
- ②住民協働のまちづくりの推進

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

当該事業の対象となる町道は、農業用としての利用率が主なため、農業生産の向上と安全確保が図られる。また、業者発注では割高となる工事が大幅なコスト削減になる。

地元住民が作業することにより、細やかな整備ができ、災害時等には現状を把握していることにより、復旧に向けての目安ともなる。

地元住民がともに汗を流すことで、より一層のコミュニケーションが図られ、地域の“げんき”として反映されることが期待できる。

※自己評価【A】

【理由】

地域住民がともに汗を流すことで、より一層のコミュニケーションが図られ、地域の“げんき”として反映されることができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

自助・共助の考えにより、住民が主体的に行う地域づくりを進めるため、住民に原材料を支給し、道路・水路の維持修繕を行い、愛着心と責任を持つことで、地域の財産としての意識を高め、良好な生活環境を保全することを観点に継続して実施したい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	原材料支給事業
事業主体 (連絡先)	飯綱町 (建設水道課 維持管理係) 026-253-4766
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	4,427,632 円 (うち支援金 : 2,894,000 円)

事業内容

町が生コンクリート等の原材料を地域に支給し、地域住民、及び受益者が自ら協働して道路等の維持補修工事を行う。



【協働で行う生コン作業】

【目標・ねらい】

- ①住民協働による住環境整備
- ②地域協働によるまちづくり推進の機運の醸成

事業効果

地域住民や受益者が自ら施工することで、地域の財産としての愛着と責任を持つようになり、大切に維持管理していく機運の醸成が図られた。

施行に際し、参加者の世代を超えたコミュニケーションが図られ、地域の活性化につながった。

また、業者発注では工事費が割高になるが、当該事業により大幅なコスト削減、きめ細やかな整備ができた。

※自己評価【B】

【理由】

住民自らの施工により、必要な箇所を優先的整備できるほか、地域の現況を把握することで、今後のまちづくりに寄与できた。

今後の取り組み

地域住民の相互協力により、低コストにより道路が完成したことは大きな成果であり、次年度以降も支援金事業を活用しながら必要箇所の整備に取り組んでいく。新型コロナウイルス感染拡大により年度途中で中止を余儀なくされる箇所もあったため、今後の動向に注視し、感染拡大防止に努めながら工夫して実施していきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	みんなで道こせ事業
事業主体 (連絡先)	上水内郡 小川村 (総務課村づくり係)
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	5, 244, 447円 (うち支援金: 2, 894, 000 円)

事業内容

住民自らが作業を行い、村が資材提供等の支援を行う協働方式により、以下のとおり道路整備を行った。

No.	地区名	L:延長(m)	W:幅員(m)
1	立屋 (裏立屋)	291	2.3
2	和手 (中島)	35	2.2
3	日本記 (中沢)	33	2.3
4	小根山町 (町)	91	2.2
5	鴨之尾 (下迎)	96	2.5
6	初引 (初引)	53	2.2
7	栗本 (六十場)	78	2.5
8	上野 (阿波羅)	82	2.2
合計		759	



【初引地区 (初引) での作業】

【目標・ねらい】

- ① 村内8地区で事業実施
- ② 参加住民延べ210人
- ③ 総延長759m

事業効果

○村内8地区、総延長759mの道路整備をすることができた。

○住民と行政が共通の目標に向かって取り組むことにより「協働の村づくり」に向けた意識の向上が図られた。

○延べ210人の住民参加があった。

※自己評価【A】

【理由】

高齢化が進んでいる当村において協働の作業が年々実施困難な状況であるにもかかわらず、期待以上の参加人数が得られている。

今後の取り組み

地区からの要望も多く、住民の参加意欲が高い事業であり、地域づくりへの参加意欲を最大限に引き出せるよう、事業を継続して実施する。

なお、実施個所の選定にあたっては、特定の地区に集中しないようバランスに配慮する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある